

## 救急車の適正利用・救急対応の円滑化

## 転院搬送における救急車利用の適正化

## 1 現状・課題

- 平成27年の転院搬送は43,155人（全搬送人員の6.4%）で、全体の救急搬送に影響を与えている。

## 2 転院搬送における救急車利用の適正化に向けた検討

- 平成28年3月31日付国通知「転院搬送における救急車の適正利用の推進について」を受け、
- 医師会、医療機関、学識経験者、東京消防庁等で構成する検討会を設置し、以下を検討
  - ・救急業務としての転院搬送ルールの方策
  - ・医療機関が有する患者搬送車及び患者等搬送事業者（民間救急車）の活用

## 3 転院搬送に係る支援

- 医療機関が有する患者搬送車又は患者等搬送事業者を利用して搬送する際の費用に対する補助

## 高齢者施設における救急対応の円滑化

## 1 現状・課題

- 高齢者施設からの救急要請は、全体と比べ緊急性の高い案件が多く、また、情報が不十分な場合には、救急活動時間が長くなる。

## 2 高齢者施設における救急対応について検討

- 高齢者施設、消防機関、医療機関それぞれの視点から、高齢者施設における救急対応について検討し、手引きを作成
  - (1) 施設内での予防救急のあり方
  - (2) 救急要請のポイント
  - (3) 救急搬送連絡シートを作成等

## 3 救急対応の円滑化（平成30年度以降）

- 地域救急会議、救急業務連絡協議会、個別訪問等を通じて、高齢者施設に対して救急対応の手引きを周知し、高齢者施設における救急対応を円滑化

## 受入体制の充実

## 精神身体合併症患者の受入対応への支援

## 1 現状・課題

- 精神科医の協力が十分に得られない環境のない救急医療機関の多くは、精神的ケア、不穏や興奮による他害行為等の対応に苦慮
- 24時間体制で対応可能な精神科医療機関が少なく、即時の転送・転院への対応は限定的

## 2 救急専門医等養成研修の実施

- 救急医療機関の医師・看護師が、少なくとも翌朝まで、精神症状を呈する患者に対して「標準的初期診療」を実施できるよう、必要な医学的知識、接遇法、入院管理、リソースの活用などを習得

## 3 精神科救急医療機関との連携

- 一般救急医療機関と精神科救急医療機関との地域連携を進める中で、精神身体合併症患者の受入体制を強化

## 吐下血患者の受入体制の強化

## 1 現状・課題

- 平成27年の東京ルールは334件であり、東京ルール発生割合は3.8%
- 夜間の緊急内視鏡のための診療体制（介助看護師、輸血など）の確保が課題
- 吐下血がキーワードとなり東京ルールとなった場合には、その他のキーワードで東京ルールとなった場合に比べて圏域内での受入率は低い。

## 2 受入体制の強化の考え方

- 東京ルール事案となった、下記の吐下血患者については、救急受入コーディネーターが受入先を調整
  - ①圏域内での受入れが困難な患者 又は
  - ②地域救急医療センター等が一時受入後に転送を要する患者

## 3 円滑な搬送に向けた受入医療機関の確保

- 地域救急医療センターの当番に合わせて夜間の緊急内視鏡による診療体制を確保している医療機関を指定（区部1か所、多摩1か所）